果樹　無人除草機を活用したぶどう栽培管理の省力化に向けた取組　【118】

団体の概要

・所在地：宮崎県都農町・川南町
・団　体：ＪＡみやざき尾鈴地区本部ぶどう部会
・栽培作物・作付面積：ぶどう・34ha (R5年度時点)
・メンバー数：41戸(R5年度時点)

導入技術

導入機器
　無人除草機（和同産業(株)製）
主要性能
・管理可能面積　30a
・ワイヤーで囲ったほ場を自動走行し除草
・ほ場内に電源（充電用）が必要であり、約１時間毎に自動で充電

無人除草機
(MR-301H)

除草作業を無人管理したほ場
（20a）

導入経緯

○ 尾鈴地区はぶどうの産地であるが、担い手の減少に伴い、産地の縮小が懸念。規模拡大等に向けて省力技術の導入が課題であった。
○ そこで、特に農繁期となる夏季の除草作業省力化を目指し、技術導入を図った。

取組の特徴・効果

○ 無人除草機の導入により、雑草を抑えた状態が維持され、除草作業が不要となった。

○ 導入前は、摘粒や果房整形等の主作業のため、除草作業に手が回らない状況にあったが、無人除草機導入により、主作業に集中することができるようになった。

○ また、常時草が抑えられた状況が維持されることや無人除草機が動き回ることから、病害虫・獣害対策などの副次的効果があると想定される。

○ 今後は、地域での同機種の導入や他スマート農業技術の導入を進めることで、作業省力化を実現し、規模拡大等による産地の維持を図っていく。